

駒ヶ嶽噴火史料

田中館秀三

駒ヶ嶽活動の記録に存するは寛永十七年大噴火以來のことなり。右史料を在札幌史家河野常吉氏及函館圖書館岡田健藏氏の厚意により蒐集せり。又記録を轉載せる書より第二次的に知り得たる史料あり、此等文書の名を次にあぐ。

一、寛永十七年六月十三日（一六四〇―七―三一）大噴火に関するもの

(1) 津輕一統史、享保年間（一七一六―一七三五）津輕藩篇

(2) 松前年歴捷徑、寛政十一年（一七九九）松前廣長著

(3) 福山舊記、天保五年（一八三四）篇、著者不詳

(4) 松前年々記、乾の卷

(5) 紀事弘賢覺書、

(6) 津輕秘鑑、

(7) 日本災異志、

(8) 新羅記録 正保元年(一六四六)松前家五代慶廣五男景廣、松前家系譜を訂正増補せるもの

二、明和二乙酉(一七六五)噴火に關するもの

(9) 蝦夷地土産

三、天明四年正月十九日(一七八四—二一八)噴火に關するもの

(10) 北海道志

四、安政三年八月二十六日(一八五六—九—二五)大噴火に關するもの

(11) 北遊乘、安政三、四年(一八五六—一八五七)姫路の儒者菅野潔の紀行録

(12) 協和私役、安政三年(一八五六)佐倉藩士窪田子藏著漢文蝦夷地紀行日記

(13) 大寶惠、安政元年(一八五四)より明治初年(一八六八—)に至る函館尾山家日記

(14) 公程日記、嘉永元年(一八四八)より安政六年(一八五九)六月までの木村源吾重直の日記

(15) 觀國錄、安政三、四年(一八五六—一八五七)備後福山藩士石川和助が藩命にて蝦夷地を探險せし時の日記

(9) 蝦夷地土産、安政四丁巳(一八五七)奇堂主人庵原鹵齋著

(16) 松前累世の家譜、

(17) 堀織部正届書、

(18) 平澤豊作日記(探蝦録)、

(19) 簡約松浦武四郎傳、

(20) 東久世長官日録、明治二年(一八六九)開拓使長官任命より同四年(一八七一)九月に至る日録

(21) 泰平年表、

五、明治二十一年(一八八八)噴火に關するもの

(22) 函館新聞、明治二十一年四月十五日(一八八八—四—一五)發行

(23) 官報、同五月二日發行

(24) 北海道地質報文 神保小虎著

六、明治三十八年(一九〇五)噴火に關するもの

(25) 駒ヶ嶽火山地質調査報文、加藤武夫著震災豫防調査會報告第六十二號、明治四十二年三月(一九〇

九)發行

七、大正八年六月十七日噴火に關するもの

(26) 奥羽西部地震外一件、今村明恒著 震災豫防調査會報告、第九十五號、大正十年九月(一九二一

九)發行

此外に

(27) 日本噴火志、大森房吉著、上編、震災豫防調査會報告、第八十六號、大正七年（一九一八）二月ありて上記史料の或者を轉載せり。又(10)(24)(25)にも同様或史料を載せあるを以て過去の噴火を知るには頗る便利なり。